



第28回（2011年）

宇宙技術および科学の国際シンポジウム

開催趣意書

および

財政計画

*28th International Symposium on Space
Technology and Science, Okinawa, 2011*

Homepage : <http://www.ists.or.jp>

会 期 : 2011年6月5日（日）～6月12日（日）

会 場 : 沖縄コンベンションセンター

第28回
宇宙技術および科学の国際シンポジウム
組 織 委 員 会

社団法人 日本航空宇宙学会

目 次

1.	名称	1
2.	主催	1
3.	共催	1
4.	後援	1
5.	協賛	1
6.	期間	1
7.	会場	1
8.	開催の目的	1
9.	歴史	2
10.	計画の概要	5
11.	日程	7
12.	収支予算表	8
13.	組織委員会の構成及び委員名簿	9

1. 名 称

和文名 第28回宇宙技術および科学の国際シンポジウム
(略称 第28回 ISTS)

欧文名 28th International Symposium on Space Technology and Science, Okinawa, 2011
(略称 28th ISTS—Okinawa, 2011)

2. 主 催

第28回宇宙技術および科学の国際シンポジウム組織委員会
社団法人 日本航空宇宙学会

3. 共 催

沖縄県
第28回宇宙技術および科学の国際シンポジウム沖縄実行委員会

4. 後 援

文部科学省・経済産業省・国土交通省・総務省・宇宙航空研究開発機構・情報通信研究機構・
日本経済団体連合会／宇宙開発利用推進委員会・日本政府観光局

5. 協 賛

日本ロケット協会・日本航空宇宙工業会・電子情報通信学会・日本機械学会・計測自動制御学会・
日本マイクログラフィティ応用学会・日本宇宙航空環境医学会・生態工学会・日本宇宙生物科学会・
日本ロボット学会・宇宙科学振興会・アメリカ航空宇宙学会 (A I A A)

6. 期 間

2011年(平成23年)6月5日(日)～6月12日(日)

7. 会 場

沖縄コンベンションセンター
〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜4-3-1 TEL: 098-898-3000 FAX: 098-898-2202
<http://www.oki-conven.jp/>

8. シンポジウムの目的

「宇宙技術および科学の国際シンポジウム」は、世界の宇宙工学、宇宙科学、宇宙医学、宇宙法等広い分野の研究者、技術者、その他関係者が一堂に会し研究発表および討論を行う場を提供し、もって、宇宙技術および科学の進歩発展ならびに宇宙開発・利用の推進に寄与すること、および関係者相互間の交流を図ることを目的とする。また、継続的に日本で開催する国際会議であることを鑑み、学生や若手研究者・技術者への発表の場の提供、参加を支援し、次世代を担う研究者・技術者の人材育成に貢献することを目的とする。

9. 歴 史

昭和34年(1959年)に第1回大会を開催して以来ほぼ隔年で開催されてきた ISTS は、平成21年(2009年)50周年を迎えた。その間、我が国で開催する最大の宇宙国際会議に成長し、2009年の第27回つくば大会を50周年記念大会として開催した。また、第27回つくば大会より、サイエンス系の国際学会との開催時期の干渉を避けるため、開催年を偶数年から奇数年に変更した。(表-1 および表-2・図-1 参照)

ISTS は開催を通して宇宙技術や科学の進歩発展に寄与し、人材育成に貢献するという当初の開催目的に加え、近年の ISTS では社会貢献として、青少年や一般社会人を対象とした科学振興及び宇宙教育を掲げ、宇宙1日授業や宇宙展示に力を入れている。そのために地方自治体からの開催要請が強く、第22回の盛岡大会以来地方での開催が続いている。

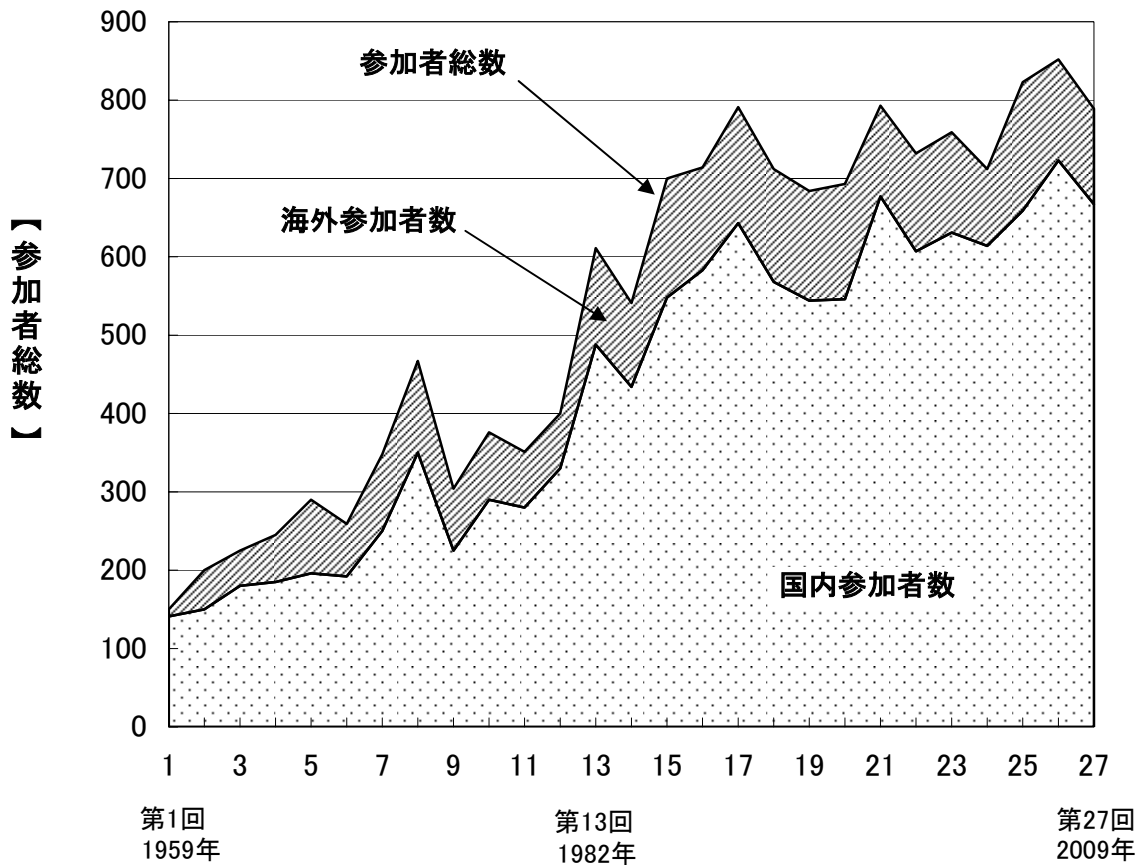
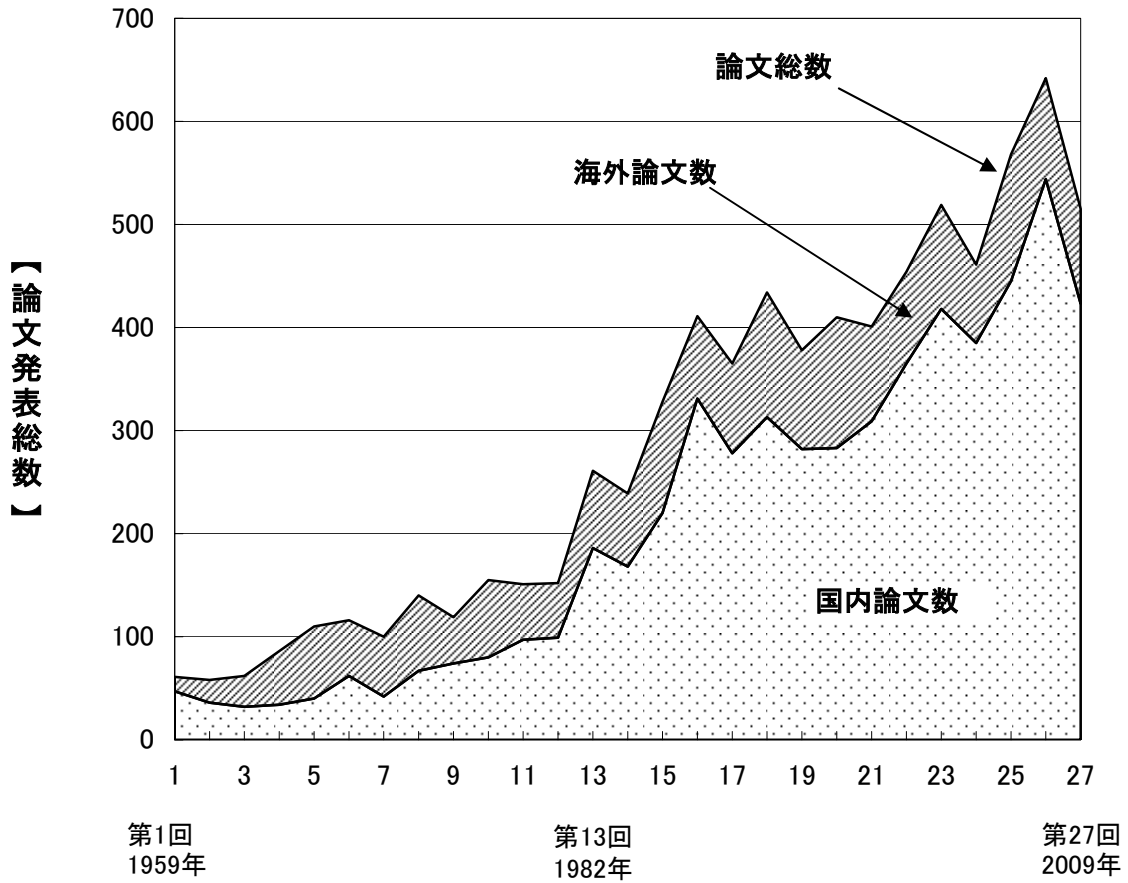
表-1 第27回の国別参加者と発表論文数(参加国数 25ヶ国)

国名	参加者数	論文発表数
アメリカ	24	24
カナダ	4	4
フランス	12	9
ドイツ	9	11
ベルギー	1	2
オランダ	3	3
オーストリア	2	1
イタリア	5	4
イギリス	3	3
スウェーデン	4	2
中国	11	11
韓国	6	4
インド	9	5
タイ	7	2
マレーシア	2	1
インドネシア	3	1
ベトナム	2	1
台湾	1	1
シンガポール	3	1
カザフスタン	1	1
イラン	4	0
イスラエル	2	0
ブラジル	0	1
その他海外	4	0
海外 計	122	92
日本	667	423
合計	789	515

表－2 第1回～第27回 発表論文数・参加登録者数

	開催期日	発表論文数		参加者数		参加国数	開催場所
		国内	海外	国内	海外		
1	1959 5/25～5/28	61		150		4ヶ国	学士会館
		47	14	141	9		
2	1960 5/24～28	58		200		6ヶ国	学士会館
		36	22	150	50		
3	1961 8/28～9/1	62		225		12ヶ国	日本都市センター
		32	30	180	45		
4	1962 8/27～31	86		245		8ヶ国	日本都市センター
		34	52	185	60		
5	1963 9/2～7	110		290		12ヶ国	日本都市センター
		40	70	196	94		
6	1965 11/29～12/4	116		259		9ヶ国	日本都市センター
		62	54	192	67		
7	1967 5/15～20	100		346		11ヶ国	日本都市センター
		42	58	250	98		
8	1969 8/25～30	140		467		16ヶ国	日本都市センター
		67	73	350	117		
9	1971 5/17～22	119		304		11ヶ国	日本都市センター
		74	45	225	79		
10	1973 9/3～8	155		376		14ヶ国	日本都市センター
		80	75	290	86		
11	1975 6/30～7/5	151		351		13ヶ国	日本都市センター
		97	54	280	71		
12	1977 5/16～21	152		400		14ヶ国	日本都市センター
		99	53	330	70		
13	1982 6/27～7/2	261		611		14ヶ国	日本都市センター
		186	75	488	123		
14	1984 5/27～6/1	239		541		18ヶ国	日本都市センター
		168	71	434	107		
15	1986 5/18～23	328		700		18ヶ国	日本都市センター
		220	108	548	152		
16	1988 5/22～27	411		714		17ヶ国	北海道大学
		331	80	583	131		
17	1990 5/20～25	365		791		19ヶ国	高輪プリンスホテル
		278	87	643	148		
18	1992 5/17～23	434		712		15ヶ国	鹿児島城山観光ホテル
		313	121	568	144		
19	1994 5/15～24	378		684		18ヶ国	横浜プリンスホテル
		282	96	544	140		
20	1996 5/19～25	410		693		22ヶ国	岐阜長良川国際会議場
		283	127	546	147		
21	1998 5/24～6/1	401		793		15ヶ国	大宮ソニックシティ
		309	92	677	116		
22	2000 5/28～6/4	454		732		18ヶ国	盛岡ホテルメトロポリタン
		365	89	607	125		
23	2002 5/26～6/2	519		759		15ヶ国	島根県民会館
		418	101	631	128		
24	2004 5/30～6/6	461		712		19ヶ国	ワールドコンベンション センターサミット(宮崎)
		386	75	614	98		
25	2006 6/4～6/11	568		823		18ヶ国	金沢市観光会館他
		445	123	659	164		
26	2008 6/1～6/8	642		852		26ヶ国	アクトシティ浜松
		544	98	723	129		
27	2009 7/5～7/12	515		789		25ヶ国	つくば国際会議場
		423	92	667	122		

図-1 発表論文数・参加登録者数の推移



10. シンポジウム計画の概要

メインテーマ “Exploring Humans, Earth and Space”
～ the quest begins in the island of peace Okinawa ～

(1) 特別講演

National Space Program (招待講演)

Organized Session (招待講演)

o-1) Hybrid Rocket: A Safe and Green Space Propulsion Evolution

o-2) Global Progress toward Solar Power Satellites (SPS)

o-3) Venue Explorer “AKATSUKI”

o-4) Solar Sail “IKAROS”

Panel Discussions (招待講演)

Panel-1) Human Exploration in Space

Panel-2) Oceanic Environment around Okinawa as seen from Space

(2) 学術セッション分野名&キーワード

a) Chemical Propulsion and Air-breathing Engines (化学推進及び空気吸込式エンジン)

- ・ 固体ロケット
- ・ 液体ロケット
- ・ ハイブリッドロケット
- ・ 空気吸込み式エンジン
- ・ 再使用ロケット

b) Electric and Advanced Propulsion (電気および先端推進)

- ・ 電気推進
- ・ レーザー/マイクロ波推進
- ・ 太陽熱/セル推進
- ・ エレクトロダインミック推進システム
- ・ 原子力推進
- ・ MHD
- ・ マイクロプラズマ
- ・ 噴出プラズマ飛翔体干渉

c) Materials and Structures (構造及び材料)

- ・ 宇宙機の構造
- ・ 構造力学及び制御
- ・ 宇宙機の解析、試験、非破壊検査
- ・ 評価材料
- ・ 新材料

d) Astrodynamics, Navigation, Guidance and Control (軌道力学、航法、誘導及び制御)

- ・ 姿勢ダイナミクス
- ・ 姿勢決定/制御
- ・ センサ校正
- ・ 軌道力学
- ・ 軌道決定/制御
- ・ 軌道設計/最適化
- ・ ミッション設計
- ・ 宇宙機航法
- ・ 突入/着陸/離陸時の誘導/航法/制御
- ・ ランデブー/近接運用
- ・ 編隊飛行衛星コンステレーション
- ・ 宇宙ロボティクス/ローバ
- ・ 宇宙機自律化/知能化
- ・ 誘導/航法/制御機器
- ・ 軌道上評価と教訓

e) Fluid Dynamics and Aero-thermodynamics (流体力学及び熱空気)

- ・ 高エンタルピー流
- ・ 大気圏突入
- ・ 熱空気力学
- ・ 空力設計
- ・ 希薄気体
- ・ 輻射
- ・ 熱防御システム
- ・ プラズマ、電磁気体力学
- ・ 低速空気力学
- ・ 離着陸時の低速空気力学
- ・ 超音速流、極超音速流
- ・ 気体力学
- ・ 風洞

f) On-Orbit and Ground Support Systems (軌道上システム及び地上支援システム)

- ・ 軌道上ミッション
- ・ 宇宙機/宇宙ステーションと補助システム
- ・ 宇宙機/宇宙ステーションの地上支援システム
- ・ 地上試験とシミュレーション
- ・ テレサイエンス
- ・ 小型衛星
- ・ 群衛星
- ・ 衛星開発における新しい試み

g) Space Transportation (宇宙輸送系)

- ・ 再使用輸送機
- ・ 使い切り輸送機
- ・ 再突入機
- ・ 軌道変換機
- ・ 有人宇宙輸送

h) Space Utilization Science and Technology (宇宙利用科学とテクノロジー)

- ・微小重力科学
- ・微小重力物理学
- ・流体科学
- ・燃焼科学
- ・基礎科学
- ・微小重力実験
- ・実験装置開発
- ・宇宙生命科学
- ・月面材料製造
- ・月面原子炉
- ・宇宙探査のための技術開発、ISSでの宇宙科学

j) Satellite Communications and Broadcasting (衛星通信及び衛星放送)

- ・システム
- ・ネットワークとプロトコル
- ・実験計画及び実験結果
- ・サブシステム
- ・コンポーネントとデバイス
- ・電波伝搬
- ・法規制
- ・事業化

k) Solar System Exploration and Scientific Research (太陽系探査とその科学研究)

- ・無人/有人太陽系探査計画におけるミッション解析と科学成果
- ・全世界的探査戦略と各国の月探査ロードマップ
- ・惑星環境探査プログラム
- ・太陽系小天体探査プログラム
- ・探査機システム、月惑星探査特有サブシステム
- ・有人月/惑星探査を可能にする基幹技術
- ・惑星探査機搭載用科学観測装置

n) Earth Observation (地球観測)

- ・地球観測
- ・地球環境
- ・リモートセンシング
- ・リモートセンシングセンサー
- ・リモートセンシングの応用
- ・データと信号処理
- ・データ解析
- ・地上システム
- ・データアシミュレーション
- ・地球変動予測
- ・地球システム科学
- ・地理情報システム(GIS)
- ・GPS(全地球測位システム)

p) Space Life Science (宇宙生命科学)

- ・宇宙医学/生理学
- ・生理的対策
- ・代謝
- ・神経生理学
- ・環境医学
- ・行動とパフォーマンス
- ・精神的課題
- ・メンタルヘルスケア
- ・遠隔治療と遠隔医療
- ・医科生物学的技術
- ・宇宙放射線(計測、生物学的影響、防御)
- ・宇宙生物学
- ・重力生理学/生物学
- ・人工重力
- ・模擬環境とシミュレーション
- ・生命科学に関する啓発と教育
- ・月/火星の有人宇宙飛行

q) Space Power Systems (宇宙電力システム)

- ・宇宙太陽発電衛星
- ・太陽電池
- ・電源
- ・電力/熱管理

r) Space Environment and Debris (宇宙環境とスペースデブリ)

- ・宇宙環境
- ・宇宙天気
- ・スペースデブリ
- ・衝突実験
- ・飛翔体-宇宙環境相互作用

s) Student Session 学生セッション

t) Systems Engineering and Information Technology (システムエンジニアリングと情報技術)

- ・システムエンジニアリング-方法論
- ・システムエンジニアリング-システム設計
- ・システムエンジニアリング-方法及び手段
- ・アーキテクチャモデル化
- ・妥当性確認と検証
- ・システムエンジニアリングのためのIT
- ・プロジェクトマネジメントとシステムエンジニアリング
- ・リスクマネジメント
- ・ソフトウェア工学
- ・要求工学
- ・モデルベースシステムズエンジニアリング
- ・ナレッジマネジメント

u) Space Education and Outreach for the Benefit of All People

(全ての人のための宇宙教育・アウトリーチ活動)

- ・宇宙教育
- ・パブリックアウトリーチ

v) Space Law, Policy and International Cooperation (宇宙法、宇宙政策及び国際協力)

- ・宇宙利用の国際法及び国内法
- ・宇宙の商業化
- ・宇宙における所有権
- ・宇宙資源の開発
- ・宇宙環境保護
- ・宇宙ごみ問題
- ・国際安全保障

・国家安全保障

・地域/国際安定化

・宇宙空間の軍拡

・国際協力

(4) 展 示

(5) テクニカルツアー

(6) その他ソーシャルイベント

11. 日 程 (案)

2011年 (平成23年)	午 前	午 後	その他
6月5日 (日)		参加登録受付開始	Get Together Place 国際宇宙展示会
6月6日 (月)	開会式・各国の宇宙開発計画		歓迎レセプション 国際宇宙展示会
6月7日 (火)	学術セッション	学術セッション	テクニカルツアー 同伴者プログラム 国際宇宙展示会
6月8日 (水)	学術セッション	学術セッション	国際宇宙展示会
6月9日 (木)	学術セッション	学術セッション	ポスターセッション テクニカルツアー 同伴者プログラム 国際宇宙展示会
6月10日 (金)	学術セッション	学術セッション	クロージングセレモニー 国際宇宙展示会
6月11日 (土)	国際宇宙展示会		
6月12日 (日)	国際宇宙展示会		

12. 収支予算表

第28回ISTS沖縄収支予算表
(平成21年10月1日～平成23年9月30日)

(単位：千円)

収入の部		
大 科 目	中 科 目	合 計
事 業 収 入		(49,670)
	参 加 登 録 費 収 入	28,630
	賛 助 金 収 入	15,000
	展 示 出 展 料 収 入	4,200
	刊 行 物 収 入	1,200
	イ ベ ン ト 収 入	640
補 助 金 収 入 (特別会計)	国 庫 補 助 金 収 入	(8,800)
	地 方 公 共 団 体 補 助 金 収 入	8,800
		0
雑 収 入	受 取 利 息	(40)
	雑 収 入	40
		0
危 機 管 理	取 崩 収 入	7,000
当 期 収 入 合 計		65,510
収 入 合 計		65,510

支出の部		
大 科 目	中 科 目	合 計
事 業 費		(17,505)
	講 演 会 費	12,155
	展 示 会 費	4,200
	刊 行 物 費	0
	イ ベ ン ト 費	1,150
	広 報 普 及 費	0
管 理 費		(31,170)
	給 与 手 当	21,310
	旅 費 交 通 費	1,360
	通 信 運 搬 費	480
	消 耗 品 費	180
	事 務 所 諸 費	4,000
	会 議 費	760
	福 利 厚 生 費	2,820
	ホ ー ム ペ ー ジ 費	60
	雑 費	200
補 助 金 費 (特別会計)	国 庫 補 助 金 支 出	(8,800)
	地 方 公 共 団 体 補 助 金 支 出	8,800
		0
退 職 給 与 引 当 金		1,035
危 機 管 理 預 金 支 出		7,000
当 期 支 出 合 計		65,510
収 支 差 額		(0)

1.3. 組織委員会の構成

第27回宇宙技術および科学の国際シンポジウム(第27回ISTS)小野田 淳次郎組織委員長は、第28回ISTSの組織委員会委員長に荒川 義博 東京大学大学院工学系研究科教授を推薦し、2009年(平成21年)5月12日の顧問会議にて承認された。荒川教授は、組織委員会の構成と各実行委員会の委員長を次のように決め、2009年11月4日に第1回組織委員会委員長会議を開催し、本格的準備に入った。

組 織 委 員 会 構 成

【顧問】		【アドバイザー】
	【組織委員長】	
	荒川 義博	
【特別顧問】		【会計監事】
		【事務局】
【組織委員長補佐】		【学会理事】
		船木 一幸
	【実行委員会】	
	【プログラム委員会(国内 / 国外)】	本間 正修
	├── 【ナショナルスペースプログラム委員会】	
	└── 【プログラム小委員会】	
	【財務委員会】	川崎 和憲
	【運営委員会】	石井 信明
	【広報/教育委員会】	広浜 栄次郎
	【展示委員会】	舘 和夫
	【出版委員会】	佐宗 章弘
	【開催地委員会】	上野 誠也
	【庶務委員会】	木部 勢至朗

第28回ISTS事務局 住所：〒105-0004 東京都港区新橋1-18-2
TEL：03-3519-4808 FAX：03-3519-9998
E-mail : inquiry@ists.or.jp
事務局長 : 清水 美和子

組織委員会・委員名簿

◎ 組織委員長

荒川 義博

東京大学大学院工学系研究科教授

◎ 顧問

近藤 次郎	(第10回 I S T S 委員長)	元日本学術会議会長
斎藤 成文	(第11回 I S T S 委員長)	元宇宙開発委員会委員長代理
小林 繁夫	(第16回 I S T S 委員長)	東京大学名誉教授
長洲 秀夫	(第17回 I S T S 委員長)	元航空宇宙技術研究所所長
林 友直	(第18回 I S T S 委員長)	東京大学名誉教授
秋葉 鎌二郎	(第19回 I S T S 委員長)	元宇宙開発委員会委員
五代 富文	(第20回 I S T S 委員長)	元宇宙開発委員会委員
野村 茂昭	(第21回 I S T S 委員長)	元宇宙開発事業団技術参与
松尾 弘毅	(第22回 I S T S 委員長)	前宇宙開発委員会委員長
久保田 弘敏	(第23回 I S T S 委員長)	東京大学名誉教授
戸田 勲	(第24回 I S T S 委員長)	元宇宙航空研究開発機構理事
的川 泰宣	(第25回 I S T S 委員長)	宇宙航空研究開発機構名誉教授
河野 通方	(第26回 I S T S 委員長)	東京大学名誉教授
小野田 淳次郎	(第27回 I S T S 委員長)	宇宙航空研究開発機構理事

◎ 特別顧問

仲井眞 弘多

沖縄県知事

◎ アドバイザー (五十音順)

秋葉 重幸	KDD I 研究所所長
久保田 啓一	NHK 放送技術研究所所長
立川 敬二	宇宙航空研究開発機構理事長
中島 隆	N T T 未来ねっと研究所所長
宮原 秀夫	情報通信研究機構理事長

◎ 組織委員長補佐 (五十音順)

石川 隆司	宇宙航空研究開発機構
稲谷 芳文	宇宙航空研究開発機構
小澤 秀司	宇宙航空研究開発機構
中須賀 真一	東京大学大学院
樋口 清司	宇宙航空研究開発機構
森田 泰弘	宇宙航空研究開発機構

◎ 会計監事

遠藤 孝夫
鯨井 忠夫

(株) I H I エアロスペース
三菱電機(株)

実行委員会名簿

(○印：委員長 △印：幹事、以下五十音順)

◎ プログラム委員会

○ 本間 正修	宇宙航空研究開発機構	△ 嶋田 徹	宇宙航空研究開発機構
△ 浜崎 敬	宇宙航空研究開発機構	△ 小紫 公也	東京大学大学院
栗沢 晃	宇宙航空研究開発機構	吉河 章二	三菱電機(株)
石村 康生	宇宙航空研究開発機構		

◎ 財務委員会

○ 川崎 和憲	(株)I H I	△ 馬場 正	(株)I H I
△ 高尾 浩司	(株)I H I	羽部 仁司	富士通(株)
佐藤 育久	三菱電機(株)	中西 英全	三菱重工業(株)
佐藤 恵助	(株)I H I エアロスペース	山口 和弘	日本電気(株)
庄司 義和	宇宙航空研究開発機構		

◎ 運営委員会

○ 石井 信明	宇宙航空研究開発機構	△ 山川 宏	京都大学
△ 鈴木 俊之	宇宙航空研究開発機構	高柳 大樹	宇宙航空研究開発機構
小澤 宇志	宇宙航空研究開発機構	野中 聡	宇宙航空研究開発機構
川上 好久	沖縄県	山本 高行	宇宙航空研究開発機構
小木曾 望	大阪府立大		

◎ 広報 / 教育委員会

○ 広浜 栄次郎	宇宙航空研究開発機構	△ 中村 全宏	宇宙航空研究開発機構
大嶋 龍男	宇宙航空研究開発機構	川上 好久	沖縄県

◎ 展示委員会

○ 舘 和夫	宇宙航空研究開発機構	△ 佐々木 薫	宇宙航空研究開発機構
伊佐山 英一	宇宙航空研究開発機構	川上 好久	沖縄県
小松 正明	宇宙航空研究開発機構		

◎ 出版委員会

○ 佐宗 章弘	名古屋大学大学院	△ 船木 一幸	宇宙航空研究開発機構
恩河 忠興	三菱重工業(株)	横田 茂	東京大学大学院
酒井 武治	名古屋大学大学院		

◎ 開催地委員会

○ 上野 誠也	横浜国立大学大学院	△ 笠原 次郎	筑波大学
加藤 純郎	琉球大学	小泉 宏之	宇宙航空研究開発機構
川上 好久	沖縄県		

◎ 庶務委員会

○ 木部 勢至朗	宇宙航空研究開発機構	△ 麥谷 高志	宇宙航空研究開発機構
----------	------------	---------	------------

プログラム小委員会名簿

(○印委員長△副委員長、以下五十音順、海外ABC順)

a) Chemical Propulsion and Air-breathing Engines (化学推進及び空気吸込式エンジン)

○	野村 浩司	日本大学	△	岡井 敬一	宇宙航空研究開発機構
	石井 一洋	横浜国立大学大学院		徳留 真一郎	宇宙航空研究開発機構
	小野寺 卓郎	宇宙航空研究開発機構		姫野 武洋	東京大学大学院
	木村 竜也	三菱重工業(株)		吹場 活佳	室蘭工業大学
	小島 孝之	宇宙航空研究開発機構		福地 亜宝郎	(株)IHI エアスペース
	砂川 英生	宇宙航空研究開発機構			

b) Electric and Advanced Propulsion (電気及び先端推進)

○	船木 一幸	宇宙航空研究開発機構	△	宮坂 武志	岐阜大学
	臼井 英之	神戸大学大学院		中野 正勝	都立産業技術高等専門学校
	大川 恭志	宇宙航空研究開発機構		中山 宜典	防衛大学校
	各務 聡	九州工業大学		百武 徹	横浜国立大学大学院
	梶村 好宏	京都大学		横田 茂	東京大学大学院
	佐原 宏典	首都大学東京		山本 直嗣	九州大学大学院
	田川 雅人	神戸大学大学院			

c) Materials and Structures (構造及び材料)

○	宮崎 康行	日本大学	△	池田 忠繁	名古屋大学大学院
	石澤 淳一郎	宇宙航空研究開発機構		下田 孝幸	宇宙航空研究開発機構
	石村 康生	宇宙航空研究開発機構		仙場 淳彦	名古屋大学大学院
	熊澤 寿	宇宙航空研究開発機構		横関 智弘	東京大学大学院
	坂本 啓	東京工業大学大学院			

d) Astrodynamics, Navigation, Guidance and Control (軌道力学、航法、誘導及び制御)

○	照井 冬人	宇宙航空研究開発機構	△	吉河 章二	三菱電機(株)
	岩田 隆敬	宇宙航空研究開発機構		外本 伸治	九州大学大学院
	卯尾 匡史	日本電気(株)		吉田 和哉	東北大学大学院
	川勝 康弘	宇宙航空研究開発機構		Jozef van der Ha	九州大学大学院
	小島 広久	首都大学東京		Thomas Rupp	DLR/GSOC
	坂井 真一郎	宇宙航空研究開発機構			

e) Fluid Dynamics and Aero-thermodynamics (流体力学及び熱空気力学)

○	川添 博光	鳥取大学	△	藤田 和央	宇宙航空研究開発機構
	大津 広敬	龍谷大学		鈴木 宏二郎	東京大学大学院
	木原 尚	九州大学大学院		西田 浩之	東京農工大学
	酒井 武治	名古屋大学大学院		平木 講儒	九州工業大学
	坂村 芳孝	富山県立大学		船津 賢人	群馬大学

f) On-Orbit and Ground Support Systems (軌道上システム及び地上支援システム)

○ 福田 盛介	宇宙航空研究開発機構	△ 小川 俊明	日本電気(株)
木村 和宏	情報通信研究機構	中谷 幸司	宇宙航空研究開発機構
田中 孝治	宇宙航空研究開発機構	水野 貴秀	宇宙航空研究開発機構
戸田 知朗	宇宙航空研究開発機構	安光 亮一郎	三菱電機(株)

g) Space Transportation (宇宙輸送系)

○ 土屋 武司	東京大学大学院	△ 藤井 謙司	宇宙航空研究開発機構
伊藤 道夫	宇宙航空研究開発機構	森戸 俊樹	宇宙航空研究開発機構
中村 卓史	三菱重工(株)	米本 浩一	九州工業大学大学院
村上 淳	(株)IHI エアロスペース	和田 英一	宇宙航空研究開発機構

h) Space Utilization Science and Technology (宇宙利用科学とテクノロジー)

○ 西野 耕一	横浜国立大学大学院	△ 上野 一郎	東京理科大学
阿部 宜之	産業技術総合研究所	藤田 修	北海道大学
稲富 裕光	宇宙航空研究開発機構	渡邊 匡人	学習院大学
石川 毅彦	宇宙航空研究開発機構	S. Valentina	Univ. of Brussels
大田 治彦	九州大学		
高橋 秀幸	東北大学大学院		

j) Satellite Communications and Broadcasting (衛星通信及び衛星放送)

○ 鈴木 龍太郎	情報通信研究機構	△ 井家上 哲史	明治大学
小川 康雄	宇宙航空研究開発機構	田中 博	神奈川工科大学
河合 宣行	KDDI	田中 将義	日本大学
田中 祥次	NHK放送技術研究所	山下 史洋	NTTアクセスサービスシステム研究所

k) Solar System Exploration and Scientific Research (太陽系探査とその科学研究)

○ 平田 成	会津大学	△ 矢野 創	宇宙航空研究開発機構
岩田 隆浩	宇宙航空研究開発機構		

n) Earth Observation (地球観測)

○ 沖 理子	宇宙航空研究開発機構	△ 久保田 拓志	宇宙航空研究開発機構
五十嵐 保	宇宙航空研究開発機構	島田 政信	宇宙航空研究開発機構
大村 誠	高知女子大学	原 芳久	三菱電機(株)
岡本 謙一	鳥取環境大学	村上 浩	宇宙航空研究開発機構
木村 恒一	日本電気(株)		

p) Life Science and Human Presence (生命科学と生体機能)

○ 向井 千秋	宇宙航空研究開発機構	△ 大島 博	宇宙航空研究開発機構
石岡 憲昭	宇宙航空研究開発機構	田山 一郎	宇宙航空研究開発機構
石田 暁	宇宙航空研究開発機構	山口 孝夫	宇宙航空研究開発機構

q) Space Power Systems (宇宙電力システム)

○ 賀谷 信行	神戸大学大学院	△ J. Mankins	ARTEMIS Innovation Management Solutions
伊地智 幸一	USEF	F. Little	Texas A&M Univ.

佐々木 進	宇宙航空研究開発機構	F. Steinsick	EADS Astrium
H. Brabdhost	Auburn Univ.	L. Summerer	ESA

r) Space Environment and Debris (宇宙環境とスペースデブリ)

○ 松本 晴久	宇宙航空研究開発機構	△ 北澤 幸人	(株)IHI
白井 英之	神戸大学大学院	H. Klinkrad	ESA/ESOS
趙 孟佑	九州工業大学	Jer-Chyi Liou	NASA/JSC
花田 俊也	九州大学大学院		

s) Student Session (学生セッション)

○ 田原 弘一	大阪工業大学	△ 堀沢 秀之	東海大学
佐原 宏典	首都大学東京	松田 淳	名城大学大学院
鷹尾 良行	西日本工業大学	W. Choe	KAIST
松井 信	静岡大学		

t) Systems Engineering and Information Technology (システムエンジニアリングと情報技術)

○ 小川 亮	宇宙航空研究開発機構	△ 田口 元	宇宙航空研究開発機構
神武 直彦	慶応義塾大学	三好 寛	宇宙航空研究開発機構

u) Space Education and Outreach for the Benefit of All People

(全ての人のための宇宙教育・アウトリーチ活動)

○ 羽生 宏人	宇宙航空研究開発機構	△ 黒谷 明美	宇宙航空研究開発機構
秋山 演亮	和歌山大学	寺藺 淳也	会津大学
大貫 美鈴	スペースロケット・ファンデーション	平山 寛	九州大学大学院
川島 レイ	UNISEC	竹前 俊昭	宇宙航空研究開発機構
谷垣 文章	宇宙航空研究開発機構	吉川 真	宇宙航空研究開発機構

v) Space Law, Policy and International Cooperation (宇宙法、宇宙政策及び国際協力)

○ 橋本 靖明	防衛研究所	△ 佐藤 雅彦	宇宙航空研究開発機構
吉田 浩	エクスカリバー(株)		

Organized Session

o-1)	Hybrid Rocket : A Safe and Green Space Propulsion Evolution	嶋田 徹	宇宙航空研究開発機構
o-2)	Global Progress toward Solar Power Satellites (SPS)	J. Mankins	ARTEMIS Innovation Management Solutions
o-3)	Venus Explorer "AKATSUKI"	賀谷 信行	神戸大学大学院
o-4)	Solar Sail "IKAROS"	今村 剛	宇宙航空研究開発機構
		成田 成	会津大学
		森 治	宇宙航空研究開発機構

Panel Discussion

Panel-1)	Human Exploration in Space	向井 千秋	宇宙航空研究開発機構
Panel-2)	Oceanic environment around Okinawa as seen from space	安岡 善文	国立環境研究所 東京大学

第 28 回宇宙技術および科学の国際シンポジウム事務局

連絡先：〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-2 明宏ビル (社)日本航空宇宙学会内
宇宙技術および科学の国際シンポジウム事務局 (ISTS 事務局)

Tel : 03-3519-4808 FAX : 03-3519-9998

E-mail : inquiry@ists.or.jp

Homepage : <http://www.ists.or.jp>

Paper Archives : <http://archive.ists.or.jp>

(第 22 回～第 25 回の Proceedings 掲載論文及び第 26 回以降の発表論文
がホームページ上で公開されています)